

カンченジュンガ Kangchenjunga

牡 鹿毛 2020.3.23生

北海道日高町 サンバマウンテンファーム生産
馬主・幅田昌伸氏 栗東・庄野靖志厩舎
馬名意味・ヒマラヤの山の一つ

エイプリルソネットUSA系 F12

ビッグアーサー 鹿毛 2011	サクラバクシンオー 鹿毛 1989	サクラユタカオー
	サクラハゴロモ	
	シャボナUSA 鹿毛 2005	Kingmambo
クエスタボルタ 黒鹿毛 2015	Relish	
	ノヴェリストIRE 黒鹿毛 2009	Monsun
	ワイドサファイア 鹿毛 2006	Night Lagoon
		アグネスタキオン
		クイーンネット

5代までのインブリード: ノーザンテーストCAN S 4×M4
Northern Dancer S 5×S 5×M5

INTERVIEW

小澤加奈子場長(サンバマウンテンファーム)

本当に感激しました

開幕週ですし、本馬の脚質には厳しいかなと思っていたのですが、今では馬に申し訳なかったと思っています。トウシンマカオとウイングレイテストの間を割って出てきたときは本当に感激しました。川田騎手はもちろん、放牧先のキャニオンファーム様のおかげで馬体重も戻り、この馬らしい競馬ができると思います。2度目のG I挑戦となる次走でも期待しています。



S.Naka

キャリアを重ねながら着々と決め手を磨いてきた本馬は、5歳を迎えた今年、2月の阪急杯で重賞ヴィナーの仲間入り。続く高松宮記念は10着、京王杯スプリングCも7着に敗れたが、夏休みを挟んで臨んだ秋の始動戦で鮮やかに巻き返し、父ビッグアーサーとの父子制覇を達成した。実績上位の2頭を撃破したこの日の末脚は本格化の証。再びG Iの頂に挑むスプリンターズSでも目が離せない存在となる。

父ビッグアーサー

北海道浦河町 バンブー牧場生産 中央、香15戦8勝(高松宮記念G I、セントウルS G II、京阪杯G II 2着、北九州記念G III 2着、阪神C G III 3着)、18年から供用[代表産駒]トウシンマカオ(セントウルS G II、京阪杯G III 2回、オーシャンS G III、スプリンターズS G I 2着)、カンченジュンガ(本馬)、ビッグシーザー(京阪杯G III)、ブントドール(函館2歳S G III、ファンタジーS G III 2着)、ブーケファロス(マーガレットS・L 2着)、ワインモナーク(ラピスラズリS・L 3着)

母クエスタボルタ

北海道浦河町 有限会社吉田ファーム生産 中央4戦0勝

カンченジュンガ 本馬(20 牡父ビッグアーサー)中央20戦6勝(セントウルS G II、阪急杯G III、下関S、周防灘特別)獲得賞金161,225,000円
マイゲツ(21 牡父ビッグアーサー)中央3戦0勝、地方7戦1勝
モンタルチーノ(22 牡父ビッグアーサー)中央9戦1勝(24 不受胎)
ワイドグンサ(23 牡父ニューアイザーズUSA)(25 牡父ビッグアーサー)

祖母ワイドサファイア

北海道千歳市 社台ファーム生産 中央2勝(フローラS Jpn II 2着、エルフィンS G III 2着)

クエスタボルタ(15 前出)

ワイドファラオ(16 牡父ヘニーヒューズUSA)中央3勝(ニュージーランドトロフィーG II、ユニコーンS G III)、地方1勝(かしわ記念Jpn I、テレ玉杯オーバルスプリントJpn III 2着、さきたま杯Jpn III 3着)、種牡馬

アタカンテ(19 牡父ルーラーシップ)中央2勝、地方1勝

ワイドトラール(21 牡父カリフォルニアクロームUSA)中央4勝(愛知杯G III、紅梅S・L、長岡京S)@

曾祖母クイーンソネット

北海道千歳市 社台ファーム生産 中央5勝(天の川S、淀屋橋S、津軽海峡特別、なでしこ賞、新潟記念G III 2着、六甲S G III 2着)、13年用途変更

プロセッション(03 牡父エルコンドルバーサUSA)中央5勝(薰風S)

ワイドサファイア(06 前出)

ヴァーゲンザイル(08 驅父ネオユニヴァース)中央5勝(サンシャインS、安房特別、初咲賞、メトロポリタンS G III 3着)、地方1勝

ブランクヴァース(09 牡父ネオユニヴァース)中央3勝(名鉄杯)、地方1勝(高知県知事賞)

豪快な追い込みを決めて父子制覇達成

サマースプリントシリーズの最終戦にして、スプリンターズSの前哨戦とも位置付けられているセントウルSは、実績上位の2頭が主軸を形成。大目標のG Iに向けてここから始動するトウシンマカオとママコチャヤが、2番人気を分け、シリーズ優勝の可能性を残す北九州記念の2着馬ヨシノイースターシャンマカオとママコチャヤが、2番人気を占めたのは先の2頭を含め、夏場を休養に充てていた実績馬たち。しかし、出走馬中唯一のG Iヴィナー・ママコチャヤと、連覇に挑んだトウシンマカオの前には、8番人気の伏兵カンチエunjungangが立ちはだかった。

先手を奪ったのは初めてプリンカーニ着ならシリース優勝となるティエムスパードは早めに反撃、快調に飛ばすカルチャーティに並びかけて4コートヤが2頭の間を割って伸び、先頭に躍り出る。対して馬場の外めから追い込んだのがカンチエンジュンガとトウシンマカオ。なかでも道中は内々で脚を溜め、直線に向いてから外へ持ち出されたカンチエンジュンガが、人気の2頭を一刀両断にして豪快な追い込みを決めた。

カンチエンジュンガとトウシンマカオ。なかでも道中は内々で脚を溜め、直線に向いてから外へ持ち出されたカンチエンジュンガが、人気の2頭を一刀両断にして豪快な追い込みを決めた。

手綱を押して飛び出したティエムスパードは無理に競り合わず2番手に控え、ママコチャヤとヨシノイースターがその後に続く。前半600mの通過が33秒0と、開幕週の馬場に水準級のラツプが刻まれていくなが、トウシンマカオは中団の外を追走。カンチエンジュンガの川田将雅騎手も、後方馬群の内でじっくりと末脚を温存した。